

診療部

呼吸器内科

副病院長 船山康則

◆ 診療体制と患者構成

診療科スタッフ

船山 康則：副病院長
 谷田貝洋平：呼吸器内科医長
 林 大樹：呼吸器内科医師
 中嶋 真之：呼吸器内科医師
 際本 拓未：呼吸器内科医師（非常勤）
 西野 顕吾：呼吸器内科医師（非常勤）
 島岡 洋介：（非常勤）

指導医・専門医・認定医等

船山 康則：日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本結核病学会結核・抗酸菌症指導医、日本がん治療認定機構認定医、日本感染症学会認定インフェクションコントロールドクター（ICD）
 谷田貝洋平：日本内科学会認定内科医
 林 大樹：日本内科学会認定内科医
 中嶋 真之：日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医
 際本 拓未：日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医・指導医

外来診療実績

外来患者延べ人数：8479名

入院診療実績

入院患者857名（一般病棟790名、結核病棟67名）
 内訳（主病名・述べ入院回数）

肺がん	164名
（化学療法実施患者実数42名）	
COVID-19	131名
肺結核・結核性胸膜炎	69名
肺炎・肺化膿症	68名
誤嚥性肺炎	53名
間質性肺炎	37名
慢性呼吸不全増悪	22名
気胸	20名
COPD	19名
肺非結核性抗酸菌症	16名
気管支喘息	15名
尿路感染症	15名
うっ血性心不全	13名
咯血	10名
急性呼吸不全	8名

細菌性胸膜炎	7名
脳梗塞	7名
膿胸	5名
敗血症	4名
急性アルコール中毒	4名
脱水症	4名
気管支拡張症	3名
好酸球性肺炎	3名
めまい症	3名
急性腸炎	3名
過敏性肺臓炎	2名
閉塞性細気管支炎	2名
血管炎症候群	2名
器質性肺炎	2名
肺アスペルギルス症	2名
パーキンソン病	2名
悪性リンパ腫	1名
慢性骨髄性白血病	1名
感染性大動脈瘤	1名

◆ 診療科紹介（概要）

高齢化が進み、呼吸器疾患を合併する患者は増加傾向にある。肺炎と誤嚥性肺炎を合わせると、日本人の死亡原因の第4位になり、特に脳血管障害の後遺症としての誤嚥性肺炎の患者が増加している。高齢者は多数の疾患を合併しており、呼吸器疾患といっても全身疾患の一合併症として診療にあたらなければならない。呼吸器内科では、急性期の治療と並行して、他職種（看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー等）との連携の上、リハビリテーション・退院調整を行っている。

慢性呼吸不全の急性増悪に対しては、急性期の治療後に、在宅酸素療法や在宅人工呼吸療法を導入し、退院調整を行っている。

気管支喘息、COPD患者については、近隣医療機関からの紹介も受け、難治性の病態に対して専門的な医療を提供している。

肺がん患者に対しては、臨床病期、年齢、全身状態などを勘案して、入院及び外来で標準治療を行っている。当院には放射線治療の設備が無く、また呼吸器外科医が不在のため、手術や放射線治療の適応がある患者は、専門病院と連携して診療を行っている。

特発性間質性肺炎の他、関節リウマチや膠原病、血管炎症候群等に伴う肺病変については、リウマチ科専門医と連携し診療している。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、外来で簡易型のポリソムノグラフィーを施行し、診断、重症度によりCPAP導入、またはフルポリソムノグラフィー施行目的で専門医療機関を紹介している。

肺結核症については、県内で唯一の結核病棟を有するため、県内の広い地域や、千葉県東部をはじめとする県外からの結核患者を受け入れている。高齢で合併症を有する患者が多く、県南では外国人結核の割合が多い。慢性腎不全で維持透析を受けている肺結核症患者に対応できる医療機関は少なく、他県からの転院依頼にも対応している。喀痰塗抹陽性患者の平均入院期間は約50日間である。入院後は院内DOTS（直接監視下服薬）を行い、月1回保健所の結核担当者とDOTSカンファレンスを開催している。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が参加して退院後の地域DOTSにスムーズに移行できるよう連携している。

呼吸器感染症の一般的な治療に加え、免疫抑制剤や生物学的製剤の投与に伴う日和見感染症の診療を行っている。また、近年肺非結核性抗酸菌症の患者数が増えており、抗酸菌感染症の専門医療機関として入院、外来診療を行っている

つくば地区の感染症指定医療機関であり、COVID-19の入院治療に対応している。感染症病棟は県内のステージに応じて中等症に対応するベッド3～10床と、重症患者に対する呼吸管理を行うHCU 1床の、計4～11床で運営している

◆ 診療する主な疾患

肺がん化学療法実施患者数 42名

◆ 医療の質の自己評価

- 週2回診療科スタッフ全員と病棟看護師、理学療法士による入院患者のカンファレンスを行っている。
- リウマチ膠原病内科と合同カンファレンスを行っている。
- 入院時から退院調整を開始し、早期に適切な退院先を選択できるよう他職種と連携している。
- 感染症が疑われる患者は陰圧個室管理とし、迅速に診断・治療を開始している。
- 県内及び県外の結核患者を受け入れ、行政と連携し診療にあたっている。
- 日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会に学会発表している。
- 慢性疾患患者が多いため在院日数が長い。
- 病診連携、病病連携はさらに改善が必要。
- 一般内科・一般感染症患者の診療が多く、呼吸器疾患診療の専門性を高める必要がある。

◆ 手術・検査実績報告

検査実績

気管支鏡検査	97件
気管支鏡下肺生検	73件
気管支肺胞洗浄	11件
肺機能検査	349件
薬剤負荷肺機能検査	5件
呼気一酸化窒素測定	124件
簡易型ポリソムノグラフィー	30件
胸腔穿刺	10件
胸腔ドレナージ	36件
胸部CT検査	226件

◆ 学会発表・論文など

<論文>

当院で経験した不法滞在外国人の結核症例に関する臨床的検討
林 大樹、松倉しほり、田口真人、谷田貝洋平、船山康則：
Kekkaku Vol.96、No.2：11-17、2021

地域DOTS移行後に服薬状況の把握が困難になり、治療中に再発した肺結核の2例
藤原美貴、林 大樹、中嶋真之、谷田貝洋平、船山康則：
Kekkaku Vol.97、No.2：79-83、2022

<学会発表>

地域DOTS移行後に服薬状況の把握が困難になり、治療中に再発した肺結核の2例
藤原美貴、林 大樹、中嶋真之、谷田貝洋平、船山康則：
第180回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会、第246回日本呼吸器学会関東地方会合同学会、2021年9月25日(秋葉原コンベンションホール、会場+WEB ハイブリッド開催)